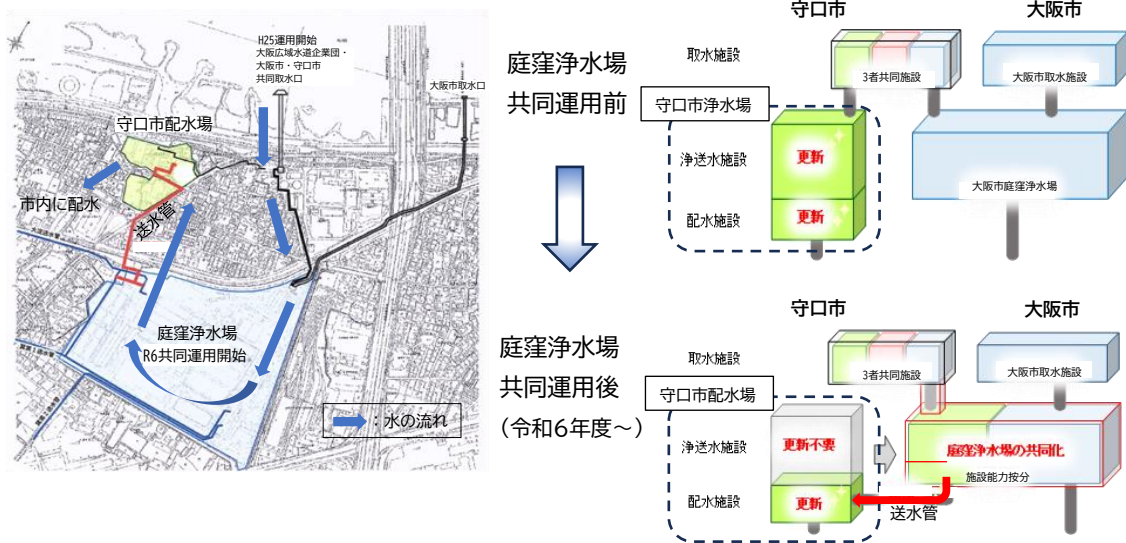


配水場施設整備基本計画 概要版

1 施設整備計画策定の背景と目的

令和6年度（2024）より庭窪浄水場の共同運用を開始したことに伴い、浄水施設は、大阪市の管理運営のもと計画的かつ効率的・効果的に更新されることになります。

一方、その他の配水場施設は、市の既存施設を継続して使用することとなりますが、配水場施設の多くは、高度経済成長期（昭和30年代～50年代）に建設されたもので、更新時期を迎えつつあります。そのような中、将来にわたって「安全で良質な水を安定的に供給」するためには、施設の健全性を確保する必要があり、本計画は、老朽化が進んでいる配水場施設の計画的な施設更新を図ることを目的に策定したものです。

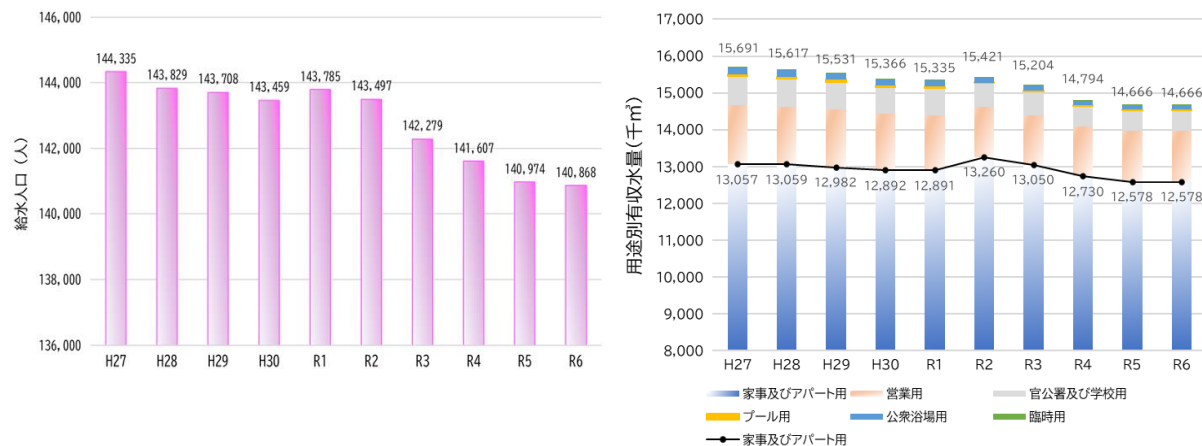


2 現状の課題

1) 水需要の減少

本市の給水人口（＝行政区内人口）は、昭和46(1971)年の188,035人をピークに減少傾向が続いており、過去10年間における実績値は下図に示すとおり、平成27年度(2015)から令和6年度(2024)の10年の間に約3,500人の減少が見られます。

また、収益にも影響する有収水量全体についても同様に減少しています。



2) 施設の老朽化

本市の水道施設（庭窪浄水場及び共同取水施設を除く）のうち、その多くが高度経済成長期に整備したものであり（下表参照）、現在、更新のピークを迎えつつあります。また、これまでの間、数次にわたり拡張事業を進めてきたことから、狭隘な敷地内に複雑かつ密集した状態で施設が配置されており（施設配置図（現況）参照）、今後の更新にあたっては、現行の配水施設等を稼働させながらの事業実施となるため、工事の難易度も高くなることが想定されます。

●第1 配水場施設

区分	施設名	規格	建設年度	耐震性
配水施設	1号配水池	1,400m³	1950年	なし
	2号配水池	6,650m³	1956年、1970年	なし
	3号配水池	2,380m³	1997年	あり
	6号配水池	1,070m³	1995年	あり
	第1ポンプ室	150kw×1台 280kw×2台	1997年	あり
その他	第2ポンプ室	150kw×3台	1970年	なし
	受配電設備			

●第2 配水場施設

区分	施設名	規格	建設年度	耐震性
配水施設	4号配水池	7,500m³	1967年 一部2009年に耐震化	一部あり
	第3ポンプ室	150kw×1台 175kw×1台	1970年	なし
その他	庁舎(中央操作制御室含む)、受配電設備、車庫、倉庫			

●東郷配水場施設

区分	施設名	規格	建設年度	耐震性
配水施設	配水池	5,500m³	1974年	なし
	ポンプ室	110kw×1台 150kw×1台	1974年	なし

●その他（八雲北公園用地）

区分	施設名	規格	建設年度	耐震性
配水施設	5号配水池	8,000m³	1971年	なし

施設整備着手前
(令和7年時点)

施設配置図（現況）



3 事業の実施方針

① 災害に強い水道の構築

「守口市水道ビジョン2023」に掲げた基本方針である水道の強靱化を実現するため、施設の更新を着実に進めることにより、耐震化率100%を目指します。また、災害発生時におけるライフラインの確保を目的に、新たに自家発電設備を設置します。

施 設		単位	R3 (水道 ビジョン)	R14目標値 (水道 ビジョン)	第1期工事 その2完成後	第2期工事 完成後	第3期工事 完成後	第4期工事 完成後	第5期工事 完成後
配水施設	配水池の耐震化率	%	16.7	30.0	28.9	69.8	81.0	100.0	100.0
	ポンプ施設の耐震化率	%	34.8	65.0	65.0	65.0	84.7	100.0	100.0

② 水需要の減少等に対応した施設整備

給水人口の減少等に伴い、有収水量の減少も見込まれるため、今後の施設の更新にあたっては、過剰な施設整備とならないよう、将来の給水人口や水需要について予測した上で、規模のダウンサイジングにも取り組みます。また、本計画は長期にわたるため、「守口市アセットマネジメント 2025」などの関連計画との整合性を図りつつ、持続可能な安定した経営の確保を第一義に、水道事業の経営状況も見極めながら、計画の進捗管理に努めます。

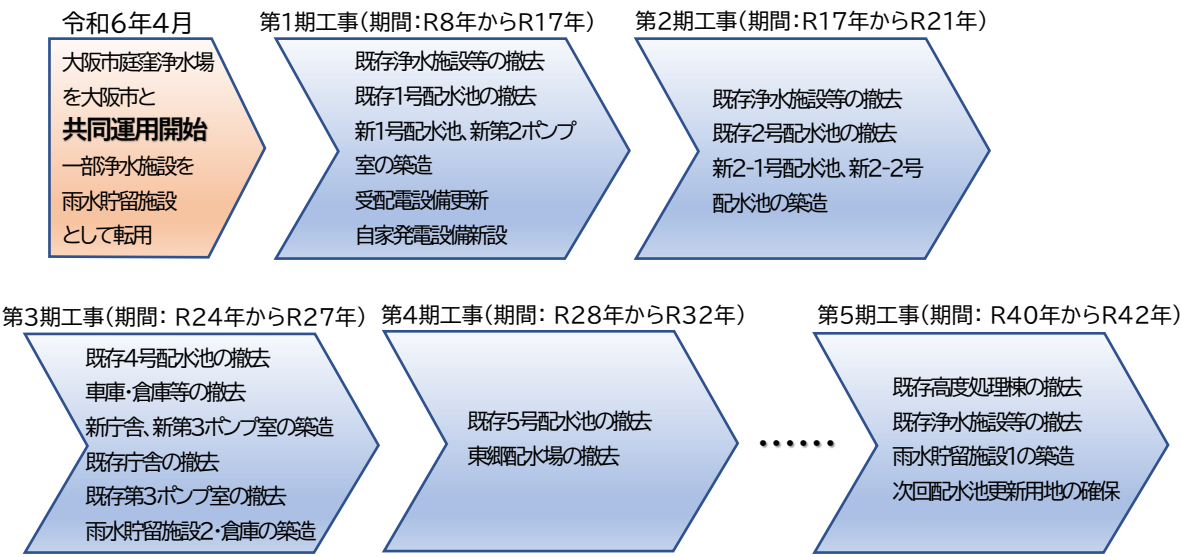
③ 周辺地域への影響についての配慮

本計画は、令和 42 年度を最終年度とする長期にわたっての計画であり、今後の事業実施にあたっては、近隣住民をはじめとする周辺地域への影響が見込まれるため、騒音・振動等の各種規制についての対応はもとより、事故等の防止など、安全対策にも十分な対策を講じてまいります。また、将来的な施設整備を効率的に行えるよう、敷地内に十分な緑化スペースを確保するなど、周辺環境の向上にも取り組みます。

4 施設整備概要

① スケジュール

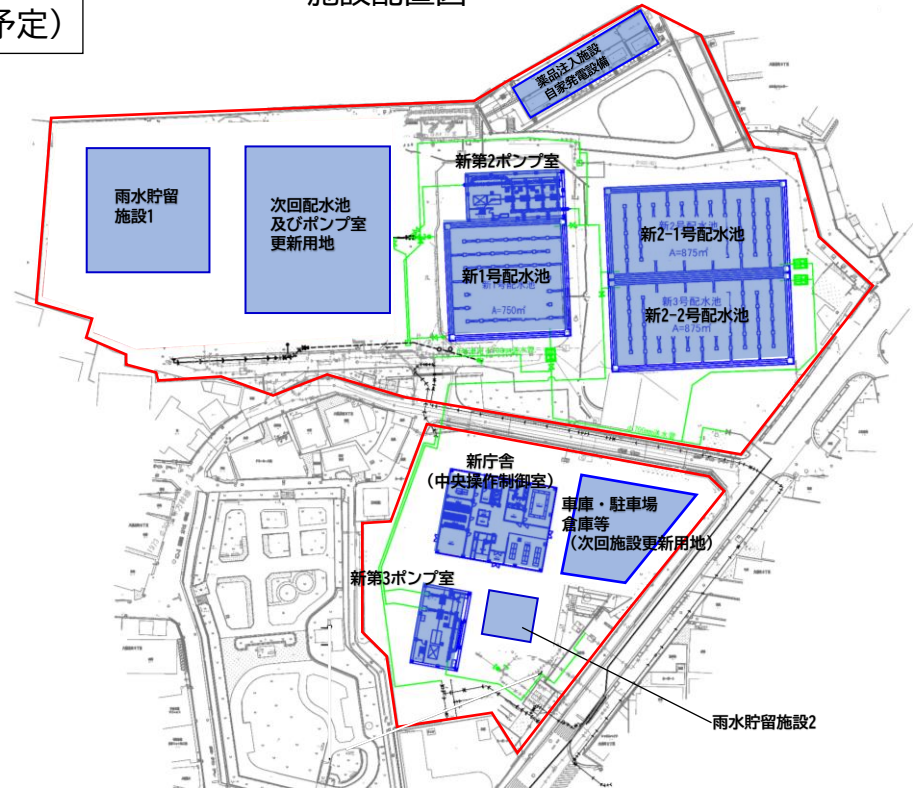
本計画では、施設整備の期間が長期にわたるため、全体の工期を1～5期に区分して実施します。



※各工事にかかる設計業務は期間に含めておりません

施設整備完了時
(令和42年予定)

施設配置図



【現況】
配水池容量：32,500m³（7池）
配水ポンプ台数：10台

➡

【計画完了時】
配水池容量：20,000m³（3池）
配水ポンプ台数：5台

配水池 12,500m³のダウンサイジング(38.5%減)
配水ポンプ 5台のダウンサイジング(50%減)

Point!

5 第1期工事（期間：R8～R17年度）の概要

第1期工事については、本計画の策定と並行し、令和6～7年度の2か年で詳細設計を進めてまいりました。第1期工事の概要は、以下のとおり（その1）（その2）（その3）に区分し、配水施設の耐震化の推進や自家発電設備の設置など、災害への備えを重点的に進めてまいります。

- 第1期工事（その1）：配水池及びポンプ室築造に支障となる既設配管、既設電線の移設
工期：R8年～R9年 概算工事費：3.8億円
- 第1期工事（その2）：新配水池（容量5,000m³）及び新ポンプ室築造、受配電設備更新
工期：R9年～R14年 概算工事費：55.8億円
- 第1期工事（その3）：自家発電設備の新設（配水施設用）
工期：R15年～R17年 概算工事費：7.0億円

第1期工事
概算工事費
66.6億円

